



ほけんだより

8月号



社会福祉法人伊東つくし会
ちゅうりっぷ保育園

猛暑が続いています。子どもたちは、暑さの中でも夢中になって遊ぶので、水分の補給には十分に気を配りましょう。また、夏休みに遠出される方も多いと思います。体調やげがに気を付けながら、楽しい夏の思い出をつくりましょう。

熱中症

熱中症は、日射病、熱射病などの総称です。日射病は、戸外で強い直射日光にさらされることが原因で、熱射病は室内でも気温の高い場所に長時間いたために起こることが原因です。



熱中症の症状

日射病…顔は赤く、呼吸が荒くなります。皮膚感覚は熱く、体温が上がっても汗が出ず、めまい・頭痛・吐き気などを伴います。
熱射病…顔は青白く、大量の汗をかきます。皮膚感覚は冷たく、めまい・吐き気を伴います。

なぜ子どもは熱中症になりやすい？

子どもは体温調節がうまくできず、温度変化の影響を受けやすい、また衣服の着脱も水分補給も一人で行うのが難しいため、容易にかかりやすいのです。

車や家の中でも熱中症になります

特に車中では、気温が高くなくても高温になるので、子どもを一人にするのは絶対に避けましょう。

予防のポイント

- 日中は帽子をかぶって外出をしましょう。日除けのあるベビーカーも照り返しで暑くなるので、散歩はできるだけ短時間で切り上げましょう。
 - 炎天下での遊びは、長時間に及ばないように注意しましょう。海や屋外プールなどの水辺でも、30分毎に日陰で休息をとるようにしましょう。
 - 肩まで隠れる、吸湿性、吸水性に優れた衣服を選びましょう。
- こまめに水分補給をしましょう。

7月の感染症

突発性発疹 手足口病

その他、軟便、発熱でお休みする子が多くいました。ちゅうりっぷ保育園がスタートしてひと月経ちました。子どもたちは環境の変化に、興奮したり、不安、疲労により体調を崩しやすい時期ですので、体調の変化に注意していきたいと思います。おうちでも無理をせず、ゆっくりと過ごし、しっかりと疲れをとるようお願いします。

園で預かる薬について

子どもが内服する薬は保護者が管理することが望ましいのですが、医師が保育園でも薬の服用が必要と指示した場合には、お預かりします。

薬を預ける場合は、与薬依頼書、薬剤情報提供書とともに、1回分を必ず職員に手渡しでお預けください。受診する場合には、保育園児である事を伝えていただき、与薬3回の場合、朝、帰宅時、寝る前、又は1日2回（朝、夕）の処方が可能か聞いてもらえますか。誤って与薬することを防ぐために

ご協力お願いいたします。

